

## (5) 赤潮発生状況調査

### 予算

運営費交付金

### 結果の概要

2014年の赤潮の発生件数は18件で、昨年(19件)と同程度であった。2014年は例年と同様に珪藻類が主体であったが、鞭毛藻類による赤潮も近年と比較すると多く確認された。鞭毛藻類によるものでは、昨年に引き続き有毒渦鞭毛藻の *Alexandrium tamarense* が赤潮として確認されたほか、*Prorocentrum minimum*、*Heterosigma akashiwo*、*Eutreptiella* sp.、*Karenia mikimotoi* が赤潮を形成した。また、*Myrionecta rubra* の赤潮が10月に確認された。有害種は、*Heterosigma akashiwo* が6月中旬から6月下旬に出現し、最高12,800cells/mlの密度で赤潮を形成したほか、*Karenia mikimotoi* が最高4,210cells/mlで10年ぶりに赤潮として確認された。一方、*Chattonella* 属 (*C. antiqua*, *C. marina*) は1~2細胞/ml確認されたのみであった。これらの情報は大阪湾赤潮速報として大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センターホームページ (<http://www.kannosuiken-osaka.or.jp/suisan/gijutsu/akashio/index.html>) で公表した。

### 調査方法

#### 1. 調査定点

大阪湾全域20定点(浅海定線調査に準じる)、もしくは東部海域14定点(水質監視調査に準じる)

#### 2. 調査期間と実施日

2014年1月~12月について、貝毒警戒時期である2月~4月、赤潮多発期である5~9月は概ね週1回、それ以外の月は月2回

#### 3. 調査項目

水色、透明度、プランクトン細胞数等

#### 4. 調査船

漁業調査船「おおさか」(19トン、680kw×2基)

### 調査結果

表1、2、3、4のとおり。

## 担当者

山本圭吾

表 1 赤潮発生状況調査 発生継続日数別赤潮発生件数結果

発生期間	5日以内	6-10日	11-30日	31日以上	計
発生件数	12	2	4	0	18
うち漁業被害を伴った件数	0	0	0	0	0

表 2 赤潮発生状況調査 月別赤潮発生確認件数結果

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	1	0	1	3	2	3	2	3	3	0	0	0
うち前月より継続した件数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
被害件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち前月より継続した件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)月にまたがって発生した赤潮はそれぞれの月にカウントした。

表 3 赤潮発生状況調査 赤潮構成種別発生件数結果

No.	赤潮構成種名	発生件数 (件)
1	<i>Skeletonema</i> spp.	8
2	<i>Chaetoceros</i> spp.	4
3	<i>Thalassiosira</i> spp.	3
4	<i>Prorocentrum minimum</i>	1
5	<i>Alexandrium tamarense</i> .	1
6	<i>Heterosigma akashiwo</i>	1
7	<i>Eutreptiella</i> sp.	1
8	<i>Karenia mikimotoi</i>	1
9	<i>Myrionecta rubra</i>	1
計		21

(注 1) 最優占種のプランクトン別に年間を統計して赤潮構成種を発生件数の多い順に記入した。

(注 2) 複合赤潮の構成種はすべて計数した。

表 4 赤潮発生状況調査 赤潮による被害発生状況結果

整理 番号	被害 時期	原因種	魚種	被害尾数	被害金額	最高細胞密度 (cells/ml)
		被害なし				